

2014 男女共同参画 授業実践報告集(清庵支部)

小学校

学年	教科等	単元名等	内容
1	図工	絵画(人物)	自分の顔を描くとき、髪の毛を描く段階で、耳はどうしたらいい？と子どもが質問をした。〇〇くんは、坊主だから耳を描けるね。という話題から、男子は耳を描く、女子は耳を描かないという結論を出した女の子がいた。 「隣の人の耳を見て。」と指示し、男女とも、耳を描けるほど髪が短い子がいる。耳が描けないほど髪が伸びている人がいることを確認し、それは個性だという指導をした。 そのとき、担任(男性)は、耳が髪に隠れていた。
	道徳		「男なのに〇〇」「女なのに〇〇」という子ども同士の発言を取り上げた。「『男なのに〇〇』と言っているけれど、みんなはどう思うかな？」と子ども達に投げかけ、子ども達の考えを聞いた。その後、「どんな言い方がいいのかな？」と考えさせた。
	道徳	人権教育	人権擁護委員会の皆様による1年生を対象とした人権教室の開催(2014.10.29第5校時) その中で男子・女子の区別なく、力仕事等もできる人がやればよい。男子のみの仕事ではないという事を指導していただいた。
	道徳	おふろそうじ	①「家の人にどんなことをしてもらっていますか」と投げかける。 ②父母に限らず、お父さんにごはんを作ってもらっている子、おじいちゃんに洗濯物を取りこんでもらう子など家での一人一人の役割を発表し合う。 ③お母さんが忙しいときにお風呂洗いを一人でやった主人公の気持ちに共感し、自分にも同じような経験があることを出し合う。 ④大変な仕事、楽な仕事があるわけではなく、どの仕事も家族みんなが明るく仲良く生活するために大切な仕事であることに気づき、前向きに協力しようとする意欲を高めた。
	生活科	にこにこ大作戦	家の仕事は誰がどんなことをしているかというワークシートをまとめた。 「洗濯」「掃除」「お血洗い」「お料理」などいくつもの家の仕事が出てくるのに対し、ほとんどの仕事をお母さんがやっているという意見がでてきた。しかし「掃除」はお父さんというように仕事によっては意見が分かれるものもあり、どちらがやればいいのかという話し合いになった。 最後には「どの仕事も誰がやってもいい」という意見が出て男女による仕事の差はないという結論になった。
	生活科	みんなのニコニコ大作戦	「家の仕事を手伝って、家の人に喜んでもらおう」ということで上手に手伝うために、窓ふき、階段掃除、服たたみ、洗濯などから学びたい仕事を選んでボランティアの仕事名人に教わった。
1・2	生活科	にこにこ大作戦	自分もまわりもにこにこになるためには家でどんなことをすればよいかを考えた。その中でも家族が自分のためにやってくれていることは、お父さんお母さん(男女)に関わらずできることをやってくれているという意見が出た。それを受けて自分たちができることを考えていった。その結果男女によって違うお手伝いが出てくるということではなかった。
2	図工	絵画	・人を描くとき、髪の毛を女の人は長く、男の人は短くしている子が多かったのを見て、すべての人がそうかについて問いかけてみた。 →子どもたちは「でも女の人に見えない」というのでその絵を描くときに女の人でなければならぬか、例えば生き生き活動していればいいのかと問い返した。 ・男女の色による分け方 色画用紙をとるときピンクを選んだ男の子に「女みたい」という子がいたので「本当にダメなのか」というところから作るものに合わせて色を選ぶということを話した。
	帰りの会		後期第1日目、係を決めるときに、前期にはなかった「遊び係」ができた。「遊び係」って何をやるのかをみんなで考えた。毎週水曜の昼休みにクラス全員で遊ぶことにして、その遊びを計画・運営する係とした。 初めのうちは仲良く遊んでいたが、11月に入り女子の中から「鬼ごっこはいやだ」とか「ドッチボールはつまらない」など遊んでいるときにこのような言葉が聞かれた。「男子はいいよね。走るの速いし、ボール投げるのも強いし」という子がいた。 しかし、男子の中にも同じように思っている子がいて男子だから女子だからと言うのはちがう。個人の差だということを話し、みんなが楽しめるようにルールを考えようとして投げかけた。男女の差ではなくひとりひとりの違いを認めることが大切だと伝えた。
	生活科	お店やゲームやさんを開こう	男子がアクセサリ屋をしたいという意見に女子が「男の子だけアクセサリ屋さん？」とすこし意外というつぶやきがあったので男子も女子も関係なく自分のやってみたいお店をやることの大切さを話し合った。 色で(衣服)男女の区別をするような発言は注意した。
3	朝の会		教師の家庭の様子をときどき子ども達に話す。「夫婦のどちらも仕事をもっている。家事は分担してやっている。気づいたことをお互いに手伝っている」というような内容。
	宿題		宿題で、トイレ掃除や風呂掃除を出す。これらの仕事は、男女関係なく誰もがやらなければならないことであると教えるため。

3	休み時間		「女性のパイロット」の話題をきっかけに「どの仕事も、男女関係なく誰でもできるね」と話をした。
	学活		班替えの時、席替えの時、男子班にしたがったり「女子同士がとなりに座ってもいいか」の声が聞かれたりした。男女で仲良くクラスを作ることや男女に分かれず、共同生活を送ることの大切さを説明することでその考えがでてくることはなくなった。
	学活		隣同士が男女になるように設定し、無意識のうちに男女でかかわりがもてるようにしている。
	道徳	自分の良い所をのぼして	自分の良い所に気づく一方法として、まわりの友だちから自分の良い所を指摘してもらうようにした。その中で男子が男子、女子が女子の良い所を見つけ合うのではなく男子が女子、女子が男子の良い所をみつけられるよう意識させた。
	帰りの会		友だちの良さを認める場を設定し、男女ともに自尊感情が高まるようにした。
4	体育	育ちゆくからだわたし	①大きくなってきたわたし 身長伸びを1年生～4年生までの分調べ、自分の成長を感じた。 ②思春期にあらわれる変化 男女のからだつきの変化について、図や写真で比べた。また見た目だけでなくからだのはたらきについても学んだ。その中で、心の変化についてもふれ、異性への関心が高まること、お互いに尊重し合おうという話題に広げていった。
	体育	思春期の心と体の変化	体の成長には、個人差、男女差があることを知って、みんなが気持ちよく生活したり、協力して生活したりするためには男女の違いを正しく理解した上で互いに補い合っていくことが大切であることを学んだ。
	体育	育ちゆくからだわたし	思春期の体の変化を学習する中でお互いをだいにする心も育てたいと思っています。
	朝の会		スティッチのハンカチの落とし物について、自分が落としたという人はいないか聞いたとき、色や柄から「これは女子のだと思う」と発言した男子がいた。そこで「なんで女子なの？スティッチの水色のハンカチを男子が持っていてはいけないの？」と問いかけたところ、男子でもスティッチが好きという子もあり、男女に関係なく自分の好きなものを持てばよいのだという話になった。
	学活	席がえ	男〇〇〇女〇〇 と、計五人で班をつくる時、男の〇をピンク、女の〇を青のチョークで黒板に記した。 子どもたちは、「どうして男の子がピンク？男は青だよ。」と訴えた。 男が青でなければいけない理由がなく、ピンクが好きな男子がいてもいいのでは？という結論になった。
	休み時間		男女仲良く遊んでいる姿を賞揚する。
5	家庭科		家族の一員として自分にできる「家の仕事」を探し、お手伝いではなく、自分の仕事として取り組むようにした。
	朝の会～道徳		1分間スピーチでノーベル平和賞で話題になったマララさんのことを述べた子どもの話しを受け、女の子が教育を受けることができない国があることに驚いている子が多かった。そのため、男女のことについて考える時間をとった。 「これまで男の子でよかった女の子でよかったと思いますか」と問うとほとんどが「男の子がよい」という意見だった。その理由を出し合う中で、男の人と女の方は身体も心も違う。特性もちがうことに気づいた。平等でありながらも違いを認めながら尊敬し合って生活することが大切だという話をした。
	社会	工業生産を支える人々	「働く人にやさしい職場」の指導で、性別に関係なく平等に勤務できるしくみが整えられている話しをした。
6	家庭科	くふうしよう楽しい食事	1食分の献立を考え、おかず1品をつくる計画を班で立てるとき、女の子中心になって考えるのではなく男の子も積極的に参加していた。また、実習も男女関係なく調理～片づけを分担して行っていた。
	家庭科		調理や洗濯など、男女問わず身につけるべきものであると指導している。
	家庭科	生活の見直しをしよう	一日の家事が母親に偏っていることを意識させ、男女で分業することや家族で助け合うことを学んだ。
	総合	マイ・ドリーム・プラン	昔は男は仕事、女は家庭で・・・の時代が長かった。これから就職するきみたちは男女の別なく職業の選択が可能。自分の可能性を広げよう。と話しました。
	総合		自分の夢について考えた。 その時に、仕事を選択する上で男女による違いはあるか考えた。 子どもは 看護婦さん→看護師さん など 言い方が変わっていることに気づいた。少しずつ男女を意識することなく職業を選べるのではとの話し合いになった。
	総合	将来の夢を紹介しよう	スポーツ選手、看護師、キャビンアテンダント、保育士など、男の仕事、女の仕事という枠はない。自分のやりたい仕事、特性などから選択すればよいこと。またそのための専門学校や大学などの進学先も男女の分け隔てがほとんどなく自由に選べることを理解させた。
	総合	中河内から未来へ	キャリア教育として、身近な人の職業から調べをすすめ地域の職業を調べた。その後自分の興味関心のある職業を調べていく際、男性保育士さんや女性の消防士さんなどのことを紹介した。(性別にとらわれず考えてよいことを確認させた)

6	社会		<ul style="list-style-type: none"> ・選挙権→25才以上の男子 ・見付学校の入口が男女別になっていた。 ・家系図に女子の名前は掲載されていない(「女」としか書かれていない) など歴史の中で平等とは思えない事実を取り上げ考えた。 放課後、男女の登校の帽子が同じになる(今はちがうが)どうしたらいい?という話題がのぼった。
	社会	江戸時代の身分差別	江戸時代の身分差別の授業 江戸時代には、男尊女卑の考え方があったことを伝えた。今の時代は、男女平等で同じような仕事や生活を営んでいるよい時代だということを確認した。
	社会	戦後の日本	選挙権の改善、女性の教育権や就労などの歴史的背景等を学習することによって男女平等の意識をもたせた。
	社会	近代国家への歩み	1890年の最初の選挙では選挙ができたのは一定の税金をおさめた25才以上の男性に限られていたこと、その後1925年になっても税の規制はなくなったものの25才以上の男性にしか選挙権が認められなかったことにふれ男女平等の立場から考えたらという話をしてみんなで考えた。
	日頃から		男子でも女子でもお互いのことを「〇〇さん」と『さん』づけさせている。
	国語	敬語	自分のことを「私(わたくし)」と言うことは、男女関係なくあることを学んだ。
	帰りの会		帰りの会で友だちのいいところを一日一人に書く活動をすることで、友だちのよさを見つけ、男女の仲もよくなった。
	道徳	赤いランドセル	新一年生男子の「たかし」に本人に望む赤いランドセルを買ってあげるべきか、他の色を勧めるべきかについて考え、話し合った。 本人を尊重する派、高学年になったときのこいじめを心配して、男子らしい色を勧める派に別れた。 男女に関係なく好きな色を選べばいいはずだが、男女の色が慣習となっている現実がうきぼりとなった。なぜ、そう考えたのか、これからどうしていきたいのかを話し合った。
	道徳	おれと加代ちゃん 男女の協力	ねらい 登場人物が、異性を意識しすぎるあまり、人間関係がうまくいかなくなっていることに共感し、自分の生活と照らし合わせることで互いに信頼し、学び合って友情を深め、男女仲良く協力し助け合おうとする心情を育てる。 授業を通して、男女の協力が今後の生活においてなくてはならないものだということを再認できた。
	音楽	越天楽	雅楽(日本の音楽の1つ)の鑑賞時、教科書の写真の中に男性しか写っていないことに子どもたちが気づいた。 宮内庁楽部では男性のみが担当していて(現在は不明)楽器を演奏することも男性であることを紹介した。 現在は楽器を演奏することにほぼ男女関係なくなっていることを伝えるとともに合唱の学習で行った男声・女声のそれぞれのよさがあることを再確認した。
			修学旅行の活動班の決め方について話し合った。 子ども達が楽しみにしている東京ドームシティアトラクションズで主体的に活動できるように子ども達で班を決めることにした。男女別の班や、好きな人どうしなど様々な決め方が予想されたがみんなが楽しむためにはどうしたらいいかを考えた結果「絶叫系アトラクション班」「ほのぼの系アトラクション班」に分け性別に関係なく自分がのりたいアトラクションを楽しめる班づくりに気付くことができた。
	学活		当番活動で好きな色を選んだとき、男子が赤、女子が青、黒などの色を選んでも互いに色の良さで認め合う姿がみられた。
	朝の会		安倍内閣で女性閣僚が増えたということで男性が多い場所に女性が入っていくことの大切さを話した。これから女性もいろいろな役職についていくことが日本経済の発展につながることを考えさせた。
	5・6	家庭科	担任が男であることから「先生料理できるの?洗濯や裁縫できるの?普通女の先生が・・・」と言っていたので今は男女関係なく家事も分担するしできないと困ることがあると話した。
特活	クラブ	ソフトボールクラブに男子も女子も希望して入部楽しんで活動している。	